

公益 社団法人 長井教育会



「かないがみほうぎのこと」山形ビエンナーレ2018 展示風景
アメフラシ(記念講演会講師 村上氏が所属するアーティストグループ)の作品



(前列右から2人目が村上氏)
大工道具箱作りワークショップ
kosityau (旧芳文社前)



「東京画Ⅱ -心のあやもよう」
東京都美術館 グループ展
フライヤー (左) 展示風景 (右)



講演を行う村上滋郎氏

内 容

- 1 表紙 記念講演会講師 村上滋郎氏と作品
- 2 理事長あいさつ、令和元年度役員
- 3 感謝を込めて～感謝状贈呈～、総会概要
- 4 令和元年度事業計画
- 4～5 記念講演
講師 東北芸術工科大学専任講師 村上滋郎氏
演題 想像力と創造力「アートを社会にどう生かすか」
- 6 奨学生交流の広場
- 7 お知らせ
- 8 入会のお願い

理事長あいさつ

「今後の奨学支援の方向について」



理事長 蒲生直樹

去る五月十日、参議院において高等教育の無償化に向けた大学等就学支援法が成立し、給付型奨学金を支給する仕組みができました。これにより、来年度以降、低所得世帯の学生を対象に大学や短大の学費が減免され、一部生活費にも充当できることとなります。優れた能力がありながら経済力によって高等教育を受けられなかった若者を救うものとして、喜ばしいことに思います。ただし、これにも問題をなすとはしません。というのは、この対象となるのが年収二七〇万円未満の住民税非課税世帯から年収三八〇万円未満の世帯までの学生に限られ、年収三八〇万円を越す層の家庭に恩恵が及ぶものではないからです。

今や日本は、高等教育における家計費負担が、OECD加盟国中最も重い国の一つとなりました。しかも子育て中の世代にとっては、先ごろの参議院選挙の争点の一つにもなった「老後二千万円」問題が心理的にも大きいのしかかりますから、大学生

活での経済的負担が、これまでも増して大学進学を目指す若者にとつての大きな壁になることが懸念されます。したがって、長井教育会としては、必ずしも経済的に余裕があるとは言えない、今回の支援法の及ばない子弟に奨学支援の対象を広げること、本会の責務を果たしたいと考えます。もとより、本会の奨学金が無利子とは言え、返還に当たつての負担感が決して小さくないという声のあることは（幸いにも本会の場合に返還が滞るケースは少ないのですけれども）、承知しております。

この点、本会の財務状況では独自に返還の減免を行うには無理がありますから、当面は、長井市の計らいによつて本会の奨学生もその対象になっております「山形県若者定着奨学金返還支援事業」の一層の周知を図り、県内や市内の企業に就職することで実際に活用してもらうことが第一と考えているところです。

永年のご尽力に感謝状を贈呈

この度、永年地区委員としてご尽力いただいた十一名の地区委員の皆様
に理事長から感謝状が贈られました。

永年のお勤めに、心より感謝申し上げます。

二十五年勤続

青木新一様(草岡下地区)

二十年勤続

鹿間忠二様(芦沢地区)

十五年勤続

平正道様(勸進代南地区)

渡辺徹様(成田下地区)

横山敏彦様(四ッ谷北地区)

十年勤続

今直子様(今泉下地区)

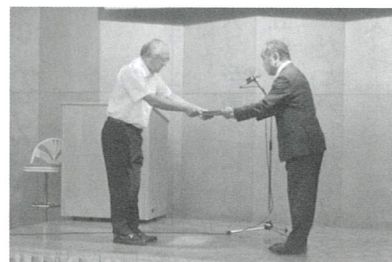
五十嵐正五様(泉地区)

鈴木欣一様(九野本上2地区)

寺嶋昭一様(幸町地区)

須崎ミチ子様(清水町2地区)

齋藤直樹様(清水町西地区)



第42回定時総会開催 ~定款も改正~

6月15日(土)にタスパークホテルで第42回定時総会が開催されました。蒲生直樹理事長のあいさつ後、長井市副市長遠藤健司様からご祝辞をいただきました。

また、永年勤続された11名の地区委員の方々に感謝状を贈呈いたしました。続いて、桑島一郎副理事長が議長を務め、報告と協議が行われ、平成30年度事業報告・収支決算報告・令和元年度事業計画・令和元年度収支予算などについて承認されました。(事業計画は別ページをご覧ください。)

続いて、定款の一部改正等が提案され、これも承認されました。この改正は、山形県教育委員会からの指導に沿って提案されたものです。改正された定款は次の通りです。

(経費の負担)

第7条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は本会会費規程に定める会費を納入しなければならない。

(公告の方法)

第43条 この法人の公告は、事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

なお、第7条の改正に伴い別に「会費規程」が提案され、これも承認されました。



令和元年度長井教育会役員

Table listing the board members and their positions for the fiscal year 2019. It includes roles like Chairman, Vice Chairman, and various council members, along with their names and the districts they represent.

〈記念講演要旨〉

演題 想像力と創造力 アートを社会にどう生かすか

講師 東北芸術工科大学 洋画コース専任講師
村上 滋郎氏

本日は、自分の活動を紹介しながら、芸術やアートが身近なところにあるということを感じていただければと思います。

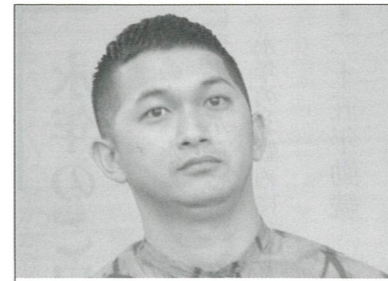
今の時代だからこそ

アートの力が必要とされる

時代は大きく変わってきています。日本の人口は、二〇五〇年に三千万人減少するといわれており、アメリカの研究では、今の子

どもたちが大学卒業後に就く職業は、六十五%が「現在、存在しない職業」だといわれています。さらに、今後十年〜二十年で四十七%の仕事が自動化されるとも言われております。工業社会から、「新しい知」や「価値の創造」が求められる情報社会へ時代が変わってきているのです。

これに対応するように、企業が求める人材は、問題形成・解決能力と対人関係能力を備えた、自分で考え行動する個性



講師プロフィール

1983年 長井市に生まれる
2006年 東北芸術工科大学卒業
2008年 京都市立芸術大学大学院修了

現在東北芸術工科大学洋画コース専任講師、
長井ブルワリークラフトマン代表、アメフラン代表

展示会
「東京画展Ⅱ」「kawaii 展」等多数

豊かな人材であり、創造的な発想力・直感力、豊かな感性や優しさ、多様性（個性）を尊重する態度等の力が求められています。ロボット、AIにはできないような、反復

性のない「イノベーション」「クリエイティブ」「プロデュース」といった能力を高めることが必要になります。

「イノベーション」とは「新しい切り口で、モノ・コトを生み出すこと」。それはまさに「アートや芸術的な思考ができる！」人材が必要とされる時代になってきているということ。私が教鞭をとっている東北芸術工科大学では、自分の言葉で話をする、自分で課題を見つけチャレンジしていくことを重視した授業を行うことで、そのような力を育てています。

制作（作品を作る）の

根底にあるもの

絵とは、頭の中のイメージを目に見える形にすることだと思います。絵を描く力とは、目に見えないものを見えるようにする力だと言えるでしょう。

私の作品は、絵画だけでなく空間を演出するなど、空間そのもの

を作品とする「インスタレーション」にも及びます。考えていることやメッセージなどの作品の根底にあるコンセプトを表現するためには、平面に限らず立体や空間も作品に取り入れます。そして、作品を作るときは、作品制作以外にも、誰かを説得するためのスキルにもなります。

作品を作るときの生みの苦しみは、何をするにもつきまとうものです。画面に向き合っていて、何の為に描いているのかわらなくなると孤独を感じることもあります。しかし、イメージを形にする・完成の喜びを知っているのも、創作活動をする人間の強みだと思います。

目の前に立ちあはだかる問題や困難を、豊かな想像力でプラスに変換できるのも美術や絵を描く人間にこそ持てる力です。

長井での取り組み

私の家の小屋は、昔、農業をし

令和元年度 経常収支予算並びに事業計画

1. 令和元年度経常収支予算の概要

(1) 経常収益	3,693,000円	
内訳	基本財産運用益（信託分配金・定期預金利子）	53,000円
	会費収入（通常会員、特別会員、賛助会員）	3,640,000円
(2) 経常費用	3,746,000円	
① 公益目的事業		
奨学金貸与事業	2,184,050円	
教育文化事業	580,850円	
② 法人管理費	981,100円	

公益社団法人では、経常収益の50%以上を公益目的事業に充てなければなりません。

2. 事業計画の概要

- | | |
|-------------------------|--|
| (1) 奨学金貸与事業 | (2) 教育文化事業 |
| ① 令和元年度の貸与について | ① 記念講演会の開催 |
| ア 大学等進学による貸与者 | 3名 |
| イ 大学院等進学による延長貸与者 | 2名 |
| ウ 令和元年度貸与者総数 | 18名 |
| エ 貸与金総額 | 10,440,000円 |
| ② 令和元年度の奨学生による貸与金返還について | ③ 市内中学校への教育研究充実に向けた支援（研究費の助成） |
| ア 奨学金返還者 | 45名 |
| イ 返還金予定総額 | 10,740,000円 |
| ③ 奨学生座談会 | ④ 市内中学校高等学校における優秀生徒への長井教育会賞授与 |
| ④ 令和2年度奨学生の選考 | (3) 会員の拡大活動 |
| | ⑤ 長井市と連携による「山形県若者定着奨学金返還支援事業」の積極的な活用に努め、地元就職者増加に資する。 |

ている祖父が建てたものです。農閑期に出稼ぎで建設業に従事していたために小屋を建てるスキルが身につけていたようです。昔は「つくるスキル」が身近にありました。しかし、現在は家でも何でも、何かを「つくる」という発想を生む想像力・創造力から離れているように感じます。

現在、十日町にある旧芳文社工場を使用し、市民参加型のワークショップ形式で市民アトリエづくりを行っています。少しでも手を動かす「つくる」場を提供したいと思ったからです。（表紙写真真下左参照）

クラフトビールの会社も、芸術を通して培った想像力と創造力が原動力でした。長井の水を今よりも有効活用できないかと考え、長井で昔からホップを作っていたことを知っていましたので、美味しい水とホップがあれば、ビールが作れると思ったのです。何もわからないところからの出発でしたが、私にとってビール造りは、作品を創ることと同じです。絵画で

は、絵の具や素材の研究を常に行なっています。長井のクラフトビール会社としての明確なコンセプトの下に、自分の頭の中に味や香りをイメージしながら、材料を研究する。そういった作業は創作活動そのものだと感じています。

新しいものを生み出す一方で、伝統産業の金井神籬の継承プロジェクトや、黒獅子の獅子連の方々も取り組んでいます。

最後に

誰もが想像できない未来が迫っている現在、大切になってくることは、絵を描いてイメージを形にするような芸術的思考、そして「手で考えること」だと思います。手で考える、とは自分の手でものを作る作業を通して、自分自身や社会・世界と向き合うことです。芸術こそが、未来を切り拓いていく力だと思っています。

ご静聴ありがとうございました。